

ラバ一竹、小馬ナラバ半分冷水天目八分二、此紙ヲヲロシテ、藥ニ合テ可飼、灌頂ノ眞言有也、亦灌頂ノ返藥ノ事、馬能成テ半時有テ、甘草一寸ヲキザミテ、藥袋ニ入テ、葱、白根七筋、水天目一餘リ入テ、一盃ニ煎ジテ可飼也、於此書者、最上ノ秘藥也、敢テ不可聊爾ト云云。

〔圓流騎馬法〕^四療治之卷

一尿結と云ふは、後肢をかゝめ臥て、おきる時はいぬふしにして、まばらく有て起、鬮のねをかき、又目たゝきをする事も有。

飼汁は昆布をあらいて、其汁にて可用、又葱芥を煎じて飼もよし。

一虫腹と云ふは右の二病より急にして、そりかゝみ尾をふり煩なり、虫の付たる所をかきせぐりをして、もだへおきふし、まげかるべし、此時はおほこを煎じて飼べし。

三段之藥

一牽牛子 一白朮 一莪朮 一大黃 一木香 各壹兩宛 一苦辛 貳分

右結馬強くば、黃芩、黃連を加へ、尿結には澤瀉、木通を加へ、虫腹には胡黃連、苦辛、大良香、葛根、榆白皮、各中周麻、少加へ、

右細末して、伺汁時によるべし、是もつよく熱したらば、大黃、黃芩、黃連を加へし、虫強くば、右の藥に三稜を可加、尿結強くば、猪苓を可加、

一内羅と云ふは、寒熱有寒にみゆる時は、毛たちふまよくし、なにとまえれず煩なり、熱の時は耳たれ毛ふし煩ふ也。

藥之事

一良香 一細辛 一茯苓 一防風 一桂枝 一干姜 一縮砂 一川芎 各等
一五味子 一當歸 各三分